






青銅製コアコートバルブ
 (管端防食コア内蔵型)
 取扱説明書

安全上のご注意

本文中、バルブの取扱を誤った時に、人身事故などが予想される箇所には
 印を付してありますので、特に取扱にご注意下さるようお願いしま
 ず。

3				
2				
1	'95.11.20	見直しによる改訂		
0	'95.9.6	新規作成		
改正	日付	記述	承認	作成

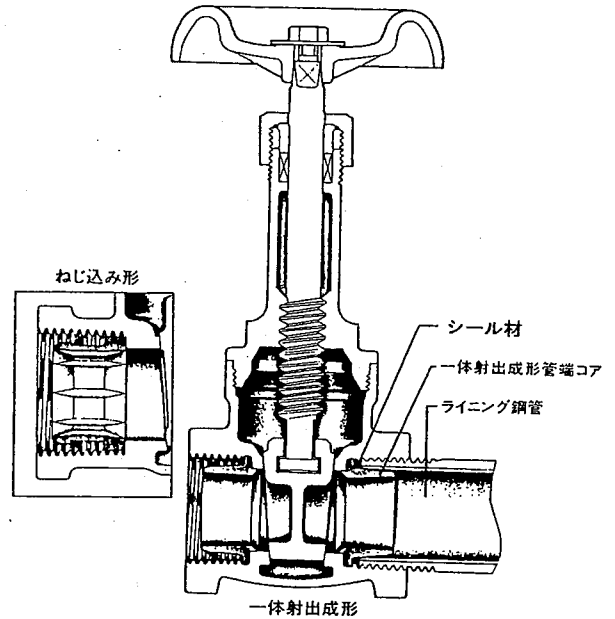
1. 適用範囲

この取扱説明書は、青銅製コアコートバルブに適用します。

2. 構造と特長

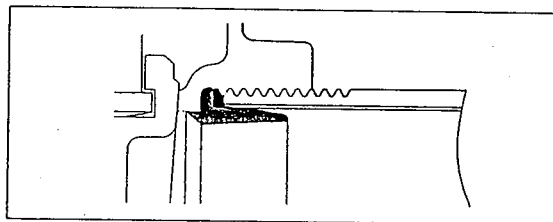
2.1 特長

- (1) 管端コアは、ポリ、塩ビ管の両方に使用できる共用形を採用し、赤水の発生を防止。従来のように、使いわける必要がありません。
- (2) 管端コア内蔵、組み込み形で、コアの入れ忘れがなく、施工が簡単。



2.2 ポリ、塩ビ管共用形コア

- (1) 当社のポリ、塩ビ管共用形コアは、先端部分を2段テーパ形状とし、内径の小さい塩ビ管でもコアを損傷することなく、配管することができます。
- (2) 配管の際、ライニング鋼管のねじ切りがJIS公差内であれば、下図のように、特殊形状のOリングが、ライニング鋼管の管端部を流体から遮断します。





2.3 仕様


型式	使用温度範囲	最高使用圧力 MPa(Kgf/cm ²)	
		静流水	脈動水
5K	常温 (40°C以下)	0.68 (7)	0.49 (5)
	耐熱用(85°C以下)	0.68 (7)	0.49 (5)
10K	常温 (40°C以下)	0.98(10)	0.98(10)
	耐熱用(85°C以下)	0.98(10)	0.98(10)

3. バルブの取り付けまでの取扱い

3.1 保管

- (1) バルブ内部への異物の混入を防止するため、配管直前まで梱包箱から製品を取り出さないで下さい。
-  (2) 管端コアは、高温に接すると熱変形する恐れがあります。火を近づけたり、溶接作業などで高温にさらさないで下さい。
-  (3) コアコートバルブの保存は屋内保管を原則とします。やむを得ず屋外に保存する場合は、直射日光や雨水を避けて下さい。

3.2 仕様の確認

-  (1) コアコートバルブとライニング鋼管が仕様に適合しているか確認して下さい。
- (2) 管の内径寸法を確認して下さい。

3.3 バルブの取り付け

(1) 取り付けるバルブが配置図に示されたものであることを確認して下さい。

⚠ (2) 取り付けるバルブが配管ラインの使用温度・圧力を満足することを確認して下さい。

(3) 配管工事現場は一般に塵埃が多いと考えられるので、配管直前まで梱包箱から製品を取り出さないで下さい。

(4) 配管前にバルブ口径内にごみ等の異物がないことを確認して下さい。
パイプ及びバルブの接続ねじ部に付着している切粉、ごみ等の異物や水分、油分等は溶剤等により除去して下さい。

(5) ライニング鋼管の切断

- 管の切断は、必ず管軸に直角に切断して下さい。
- 管の切断には、自動金のご盤・自動丸のご盤で切断して下さい。

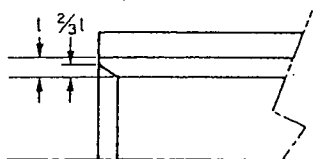
注) ガス切断・アーク切断・高速砥石切断は、高熱により樹脂ライニング面を損傷しますので避けて下さい。

⚠ (6) 管のねじ切り

ねじは、必ず JIS 規格範囲内のねじを切して下さい。JIS 規格を外れるとコアを損傷する恐れがあります。

⚠ (7) 管端の処理

- 管端面は管軸と直角としバリ、カエリのない平滑な面に仕上げして下さい。
- スクレーパ等で管内面の面取りを必ずして下さい。
- 面取りは、塩ビライニングの肉厚 2/3 程度行って下さい。鋼管部分まで削ると腐食の原因となります。



(8) シール剤の塗布

管のおねじ部及び管端部に防食シール剤をむらなく塗布して下さい。